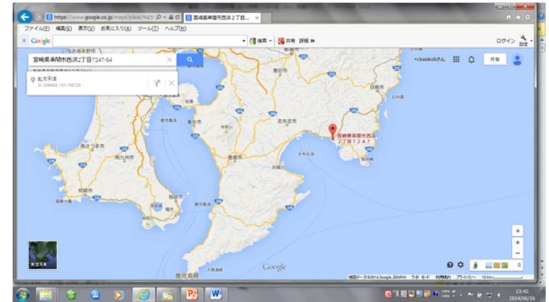


養殖エコラベル



宮崎県丸栄水産かんぱち養殖の概要

生産者 : 丸栄水産株式会社
住所 : 宮崎県串間市西浜 2 丁目 7247-54
漁場 : 宮崎県志布志湾鬢垂島地先
対象養殖魚 : カンパチ



養殖環境

現在、国内で生産されているカンパチの9割以上が中国産の天然種苗（海で獲った稚魚を養殖する）である。丸栄水産では水産資源が枯渇化しつつある現況を踏まえて、天然採捕による種苗を使用するのではなく、飼育管理された親魚が産卵した卵から採取された種苗を使用するのでカンパチの天然資源の保護がされている。



現在のカンパチ養殖における給餌形態のおよそ9割以上が、生餌（アジ、サバ、イワシなど）と配合飼料によって成形されたモイストペレット（以下MP）が使用されている。「e-カンパチ」ではエクストルーダーペレット（固形飼料を発泡化させ、サプリメントや水分、油脂などを吸収させやすくした飼料、以下EP）を使用している。MPは混ぜ合わせる生餌やサプリメントによって様々なタイプに仕上がりに、カンパチに適した餌ではあるが、給餌する際の濁りによる海洋汚染や生餌の種類によってカンパチの品質にバラつきが出る。一方、EPは給餌する際の濁りがほとんどないため、環境に負荷を与えない。さらに、常温保存が可能であり冷凍庫の設備も必要ない。EPは、地球環境問題に適した「エコな餌」である。また、品質も非常に安定しており、四季を通じて「美味しいカンパチ」の提供が可能である。



EP（エクストルーダーペレット）

丸栄水産では、日々の養殖事業の中で水質保全や底質の改善に努め、創業以来毎年宮崎県が行う漁場ランク調査では毎年「最高ランクのA」を獲得している。



① 食の安全性

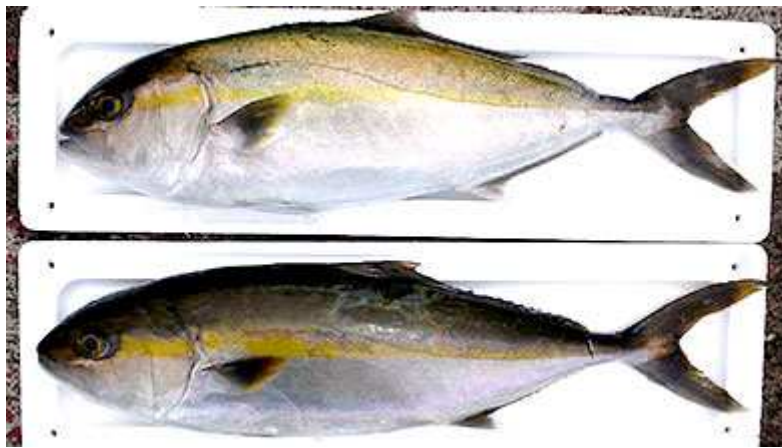
「e-かんぱち」は、国産の養殖用カンパチ種苗とEP給餌が合わさることにより、履歴が明確で、現在の中国産天然種苗と生餌を使用するMP給餌に比べ、よりレベルの高い食の安全性を確保できる。



② 品質の安定・向上

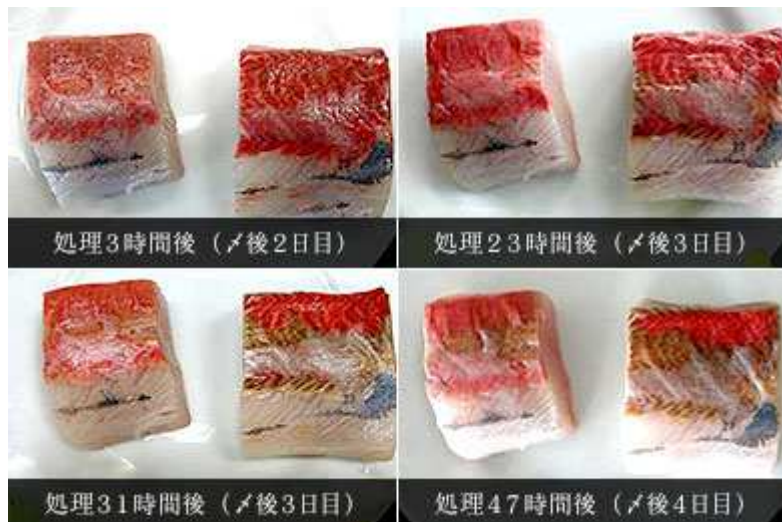
一般に魚には「匂」が存在するが、養殖魚も同様なものを与える生餌の種類により品質のバラつきが生じる。しかし、E P自体の品質が安定しているため、魚肉の品質の安定化、及び与えるE Pの種類によって品質の向上にも期待できる。

また国産の養殖用カンパチ種苗とE P給餌で育てられたカンパチは、魚肉歩留まりが2～3%高い傾向があり、効率的な食糧転化率にも期待できる。



上段：e-かんぱち

下段：通常のかんぱち



「酸化の経時的変化」左：e-かんぱち 右：通常のカンパチ
「e-かんぱち」の方が「通常のカンパチ」より酸化や変色が遅い。

③ 防疫

現在、種苗のほとんどが中国産に頼っているため、国内への疾病の持ち込みが問題視され、現実には日本には存在しなかった様々な疾病（菌・ウイルス・寄生虫・小型海洋生物など）が持ち込まれている。それらが発症することにより、歩留まりが減退し、時には生態系への影響も懸念される。国産の養殖用カンパチ種苗を使用すれば防疫の観点で歯止めをかけることが期待できる。

カンパチには通称「ハダムシ」と呼ばれる寄生虫が体表に寄生する。駆除には海水に薬を混ぜる方法や餌に薬を混ぜる方法も可能だが、丸栄水産では安全性を考え「淡水浴（浸透圧を利用して、体表の寄生虫を駆除する方法）」を一貫して行っている。淡水浴の駆除率はほぼ100%のうえ、コストもあまりかからず、魚にも無害（人間にも無害）である。労力が非常にかかるため、徹底的に効率化した方法で行っている。



魚の健康状態チェック



日々の魚の観察

④ 生け簀環境

網には貝類や藻類などの生物が付着しやすい。網が付着生物により目詰まりすると潮通しが悪くなり、酸素が生け簀内に行き渡らず低酸素状態に陥り、養殖魚の死亡へと繋がる。そこで水中ロボットを使い、定期的に網を清掃し、潮通しの良いキレイな生け簀を保っている。

⑤ 純日本産ブランドの確立

中国産由来の種苗ではなく、国産の養殖用カンパチ種苗で育てることで、「純日本産ブランド」として、国内需要はもとより海外での販売における信頼性の確保に期待できる。



『ジャパン オリジナル エコ カンパチ』

⑥ 経営の安定化

国産の養殖用カンパチ種苗は、中国産天然種苗と比べ安価で、生産コストが安い。またEPを使用することで、相場に左右されず計画的な生産計画が組める。比較的、販売単価が上下乱交しやすいカンパチ養殖は、原価を安定させることで販売単価の上下乱交を抑える効果が期待できる。また中国での採捕状況や生餌事情に左右されることもなく、それらは経営の安定化に繋がる。

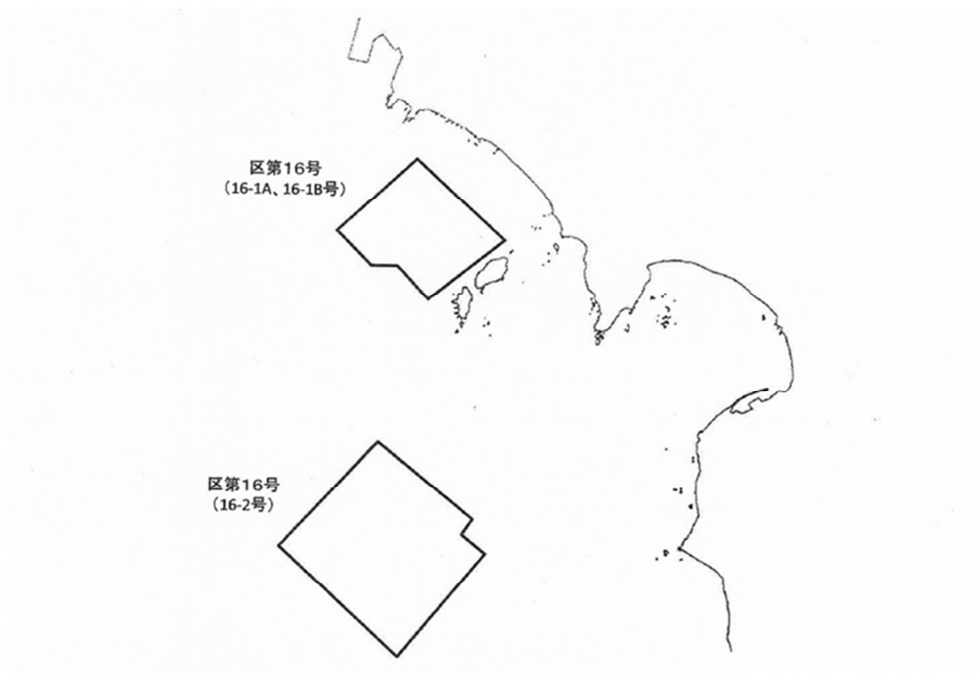
⑦ 近年の丸栄水産の国産の養殖用カンパチ種苗およびEP給餌の取り組み

平成 23 年度 天然種苗 30 万尾 人工種苗 3 万尾
(MP90% : EP10%) (MP 100%)
人工種苗割合 9% EP 給餌割合 9%

平成 24 年度 天然種苗 30 万尾 人工種苗 3 万尾
(MP80% : EP20%) (EP100%)
人工種苗割合 9% EP 給餌割合 18%

平成 25 年度 天然種苗 3 万尾 人工種苗 30 万尾
(MP50% : EP50%) (MP30% : EP70%)
人工種苗割合 91% EP 給餌割合 68%
ただし、初年度は 100%EP 給餌

丸栄水産漁場図

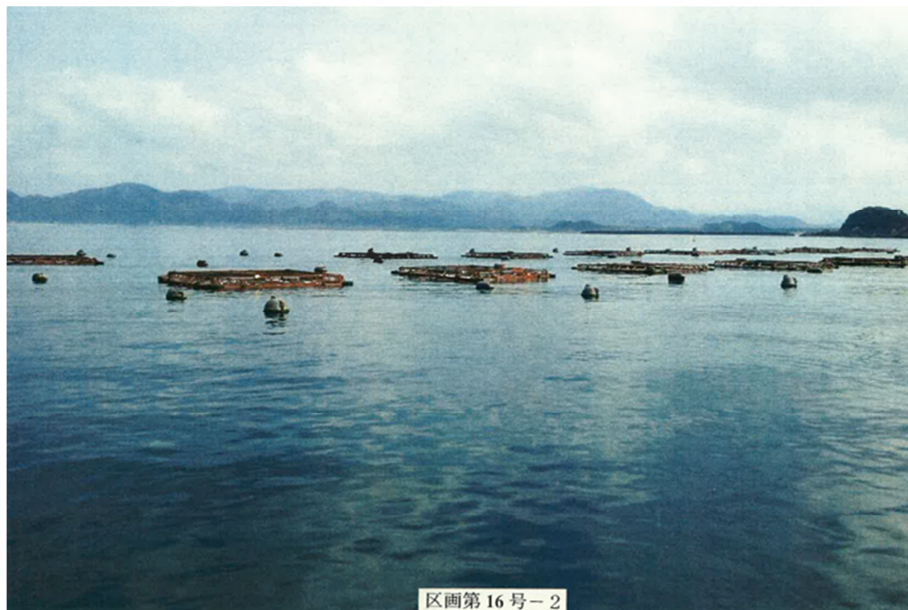


区画第16号-1 (当歳魚)



鬢垂島が消波し、静穏域となっている

区画第 16 号-2 (2・3 歳魚)



沖合に位置し、水深が 40m ある。沈下式筏が設置され台風や時化の時には沈下して凌ぐようになっている。

